



上映スケジュール

TOHOシネマズ 六本木ヒルズ Screen 2 港区六本木6-10-2 六本木ヒルズけやき坂コンプレックス内

10/24(月) 10:20 FIAF賞授賞式+近松物語 14:10 東京物語 デジタルリマスター

TOHOシネマズ シャンテ Screen 1 千代田区有楽町1-2-2

10/25(火) 13:40 猫と庄造と二人のをんな
16:45 赤い陣羽織

10/26(水) 13:40 王将一代
16:35 驟雨

10/27(木) 13:40 杏っ子
16:35 男はつらいよ 寅次郎春の夢

10/28(金) 10:50 どん底

プリント提供:東京国立近代美術館フィルムセンター 松竹株式会社 独立行政法人国際交流基金 川喜多記念映画文化財団 協力:株式会社角川書店 松竹株式会社 東宝株式会社 国際放映株式会社

■料金について:

※学生の方は、当日券に限り¥500でご鑑賞いただけます!

●香川京子特集上映 前売・当日:一般 ¥1,000 ※チケットの払い戻し・交換・再発行は致しません。※当日券は作品により販売開始直後に完売する場合がございます。

■チケット販売について:チケットぴあ、ローソンチケットにて前売券発売中! チケットご購入方法の詳細は、東京国際映画祭公式サイトにてご確認ください。 <http://www.tiff-jp.net>

<チケットぴあ>

①電話予約 0570-02-9999 ②インターネット購入 <http://t.pia/cinema/>

③店頭直接購入 チケットぴあ店舗/セブン-イレブン/サークルK・サンクス

※購入にはLコードが必要となります。

Pコード:TOHOシネマズ六本木ヒルズ=560-592/TOHOシネマズシャンテ=560-593

<ローソンチケット>

①電話予約 0570-000-407 ②ローチケ.com <http://l-tike.com/>

③全国のローソン店頭Loppiにて販売

※購入にはLコードが必要となります。

Lコード:TOHOシネマズ六本木ヒルズ=34692/TOHOシネマズシャンテ=34693

■問い合わせ先:ハローダイヤル 03-5777-8600(日本語 8:00~22:00)/050-5541-8600(日本語 8:00~22:00)/03-5406-8686(English 9:00~18:00)

「映画女優 香川京子」東京国立近代美術館フィルムセンター(京橋)にて開催

[展示]映画女優 香川京子 Kyoko Kagawa, Film Actress

9月13日(火)~12月25日(日) *月曜日および10月29日(土)~11月7日(月)は休室

東京国立近代美術館フィルムセンター展示室

東京国立近代美術館フィルムセンター ホームページ: <http://www.momat.go.jp/FC/fc.html> ハローダイヤル: 03-5777-8600

[上映]映画女優 香川京子 Kyoko Kagawa Retrospective

11月8日(火)~12月25日(日) *月曜日は休館

東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール



香川京子と 巨匠たち

Kyoko Kagawa
Retrospective

10.24(月)~28(金) 2011 TOHOシネマズ 六本木ヒルズ/TOHOシネマズ シャンテ

*第24回東京国際映画祭 / 東京国立近代美術館フィルムセンター 共催企画

香川京子と巨匠たち

日本を代表する女優、香川京子さんが本年FIAF賞(国際フィルムアークイブ連盟賞)を受賞されます。この賞は世界の映画保存機関で構成される国際組織FIAFが、映画遺産の保存活動に貢献した方を表彰するために制定されました。過去にはマーティン・スコセッシ、マノエル・ド・オリヴェイラ、イングマール・ベルイマン、マイク・リーら世界の著名な映画人が受賞しています。香川さんは日本人では初めての受賞となります。この受賞を記念し、東京国際映画祭ではFIAF賞の贈賞式と併せて、香川さんの代表作9本を英語字幕付きで上映いたします。ご自身が選ぶ代表作『近松物語』はニュープリント、字幕を新訳しました。『王将一代』は初めて英語字幕を付け、ニュープリントを制作しました。デジタルリマスター版として蘇った『東京物語』は、初めての劇場上映です。本企画は東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催事業で、フィルムセンターでは11月より香川さんの出演作品約50本を上映します。名だたる巨匠たちに育てられ、今も現役で活躍される香川さんのフィルモグラフィアーを名作を通して辿ります。

香川京子さんプロフィール
都立第十高女(現・豊島高校)卒業後、新東宝に入社。1950年、島耕二監督の『窓から飛び出せ』で映画界にデビュー後、成瀬巳喜男監督の『おかあさん』(52)、今井正監督『ひめゆりの塔』(53)、小津安二郎監督『東京物語』(53)、溝口健二監督『近松物語』(54)、黒澤明監督『どん底』(57)、『赤ひげ』(65)、『まあだだよ』(93)、熊井啓監督『深い河』(95)などに出演。90年・熊井啓監督『式部物語』でキネマ旬報助演女優賞、93年『まあだだよ』で日本映画批評家大賞女優賞、日本アカデミー賞最優秀助演女優賞などを受賞。同じく93年には毎日映画コンクールにて長年の業績を称えられ田中絹代賞が贈られた。テレビドラマや舞台でも広く活躍。最近の映画では『阿弥陀堂だより』(02)『赤い鯨と白い蛇』(05)『東南角部屋二階の女』(08)『BALLAD 名もなき恋のうた』(10)などに出演している。98年秋、紫綬褒章、04年秋、旭日小綬章を受賞。著書に「ひめゆりたちの祈り」(92年、朝日新聞社刊)、「愛すればこそ　スクリーンの向こうから」(08年、毎日新聞社)がある。

Tokyo International Film Festival (TIFF) is pleased to celebrate Kyoko Kagawa, a great actress of Japanese cinema history, for receiving the FIAF award and will hold a Special Screening of “A Story from Chikamatsu” and other 8 masterpieces with English subtitle. This retrospective is co-hosted by the National Film Center. The award ceremony will be held during the 24th TIFF in recognition of her years of support for TIFF.

< FIAF Award >
The International Federation of Film Archives have bestowed a FIAF Award to a renown personality each year since 2001. The Award celebrates the dedication of contributors to the cause of film preservation around the world. The following are past recipients of the FIAF Award: Martin Scorsese (2001), Manoel de Oliveira (2002), Ingmar Bergman (2003), Mike Leigh (2005), Hou Hsiao-Hsien (2006) and Liv Ullmann (2010).

Profile: Kyoko Kagawa
Kyoko Kagawa made her film debut in 1950 in "Mado kara tobidase," directed by Koji Shima. She has appeared in many films since then, including “Okasan” (Mikio Naruse, 1952), “Tokyo Story” (Ysasujiro Ozu, 1953), “A Story From Chikamatsu” (Chikamatsu monogatari, Kenji Mizoguchi, 1954), and Akira Kurosawa’s films, “The Lower Depths” (1957), “Red Beard” (1965), and “Madadayo” (1993). In 1990, Kagawa received the Best Supporting Actress award from Kinema Jumbo for “Mt. Aso’s Passions” (Kei Kumai), and in 1993, the Japan Movie Critics Award, the Japan Academy’s Best Supporting Actress prize, and other prizes for “Madadayo.” She also received the Kinuyo Tanaka Award for her achievements in film. Recent film credits include “Letter from the Mountain” (2002), “Red Whale and White Snake” (2005), and “Tonan kadobeya nikai no onna” (2008).

東京物語 デジタルリマスター
Tokyo Story (Digitally Remastered Version) 1953年 松竹 136min.
監督・脚本:小津安二郎 脚本:野田高悟 撮影:厚田雄春 美術:浜田辰雄
出演:原節子、笠智衆、東山千栄子

尾道から東京へ、老夫婦が子供たちを訪ねてやってくる。しかし夫婦を温かく迎えたのは戦死した次男の未亡人だけだった。映画史に残る傑作が最新の技術を駆使して美しく甦る。リマスター作業は当時の撮影助手、川又昂カメラマンが監修した。

『溝口監督とは(演出が)全く正反対。セットに入るとカメラがじっと納まっていて、そこに俳優が座るの。『東京物語』のこと、小津監督のこつてと言われても分からないんですよ。まだ若かったし。笠智衆さんがお書きになったご本を読んだりして、小津監督の演出のなさり方っていうのは「画面に俳優をはじめ込むような演出のなさり方だったと思う」と仰っていて、なるほどなあって、原節子さんのお顔を見ているだけで幸せ。お綺麗で。憧れの方だったので。原さんと一緒にできるのが嬉しくて。小津監督は二番目]



©1953・2011 松竹

近松物語 ニュープリント英語新訳
A story from Chikamatsu 1954年 大映 102min.
監督:溝口健二 脚本:依田義賢 撮影:宮川一夫 美術:水谷浩
出演:長谷川一夫、南田洋子、進藤英太郎

江戸中期、町人文化が絢爛と開花した時代。京の町で実際に起こった密通事件を文豪近松門左衛門が劇化。不義の嫌疑をかけられた若妻おさんと実直な手代の茂兵衛は追われる身となるが、やがてふたりの間に真実の愛が芽生えてゆく。脂の乗り切った溝口の演出が冴え渡る名作。

『たくさんの作品の中で、私にとっては一番大きな存在。辛かったことも含めてね。演技の面でとても勉強になった作品。『反射してください』『反射していますか』(溝口監督は)いつも仰っていました。芝居というのは、自分の番が来たからやるんじゃないって、相手の言葉とか、行動によって初めて自分の言葉や行動が生まれる。「あなたはこれ聞いてじっとしていただけますか」とか。でもまだ全然分かんなくて』



©1954 角川映画

王将一代 ニュープリント英語初訳
The King’s Move 1955年 新東宝 116min.
監督・脚本:伊藤大輔 脚本:菊島隆三 撮影:平野好美 美術:松山崇
出演:辰巳柳太郎、田中絹代、木暮実千代

明治、大正期に名を轟かせた関西の棋士、坂田三吉の将棋に命をかけた人生を描く。伊藤大輔はこの北条秀司の戯曲を大映、東映でも合計三度映画化。関東の宿敵、入江名人役の島田正吾は新国劇を辰巳柳太郎とともに支えた。

『京都の下加茂の撮影所で撮った作品。辰巳さんが面白い方で、すごく楽しかったです。これは娘役だったし、そんなに難しくなかった。監督さんは「移動大好き」というあだ名がありましたね。こういうセンス、上手ね、映画の人って』



©国策放映

驟雨
Sudden Rain 1956年 東宝 90min.
監督:成瀬巳喜男 脚本:水木洋子 撮影:玉井正夫 美術:中古智
出演:原節子、佐野周二、根岸明美、小林桂樹

倦怠期の夫婦の日曜日。些細なことで口げんかが始まり夫はふらりとしてゆく。そこに新婚旅行に出たはずの姪が帰ってきて…。助監督だった廣澤榮が、改変されたラストや成瀬演出の巧みなコンテを自著『日本映画の時代』で明かしている。実に不機嫌な顔の原節子が美しい。

『ああいう芝居が大好きなんです。お茶目な。ああいう役、大好き。大好きです、『驟雨』。ああいうのをやりたい。今でもああいう役をやりたい。ピリー・ワイルダーとかね。私がコメディをやりたいって言うと、みんなびっくりするみたい。(成瀬監督は)優しいようで怖い。目が厳しい。細かいことはおっしゃらないけど』



©1956 東宝

猫と庄造と二人のをんな
Shozo, a cat and two women 1956年 東京映画 104min.(国際版)
監督:豊田四郎 脚本:八住利雄 撮影:三浦光雄 美術:伊藤憲明
出演:森繁久彌、山田五十鈴、浪花千栄子

飼い猫リリーを溺愛する甲斐性なしの中年男を見事に演じる森繁、先妻の山田、後妻の香川の強烈な演技合戦。今までのイメージを破壊するごとのアプレ娘役を体当たりで演じる香川さんが歌う「マンボ・バカン」は、夢に出るほど耳に残ること間違いなし。

『みなさん面白いとおっしゃいますけど。監督さんに出演前に相談することは減多に無いけど、どうして私にこの役を?って、お聞きしたんです。自信がなかったから。水着姿になったのは初めて。モノクロだから分からないけど真っ赤な水着なんです。本番になるともうヤケクソ。真夏の日曜の海水浴場で芝居するなんて、恥ずかしいなんて言ってもらえない。もうどうでもいい思い切ってやるしかない。谷崎さん(潤一郎)が、私の関西弁を褒めてくださったと聞いて良かった、唯一の救い』

©1956 東宝

どん底
The Lower Depths 1957年 東宝 125min.
監督・脚本:黒澤明 脚本:小国英雄 撮影:山崎市雄 美術:村木与四郎
出演:中村鴈治郎、山田五十鈴、三船敏郎

汚さを通り越した裏長屋のセット、当時としては画期的な7分を超えるワンカット、黒澤の実験性が溢れるゴージャス原作舞台の映画化。人であることを諦めたような吹き溜まりで健気に生きる美少女役で、香川京子は黒澤映画の女神となった。

『初めての黒澤組。一番びっくりしたのは事前のリハーサルが長い。まずホン読みから。志ん生さんを撮影所に呼んで「粗忽長屋」を全員に聞かせて、そこからスタート。さすが黒澤組と思えましたね。(スクリーナーの)野上さんから「溝口組をやってきた人は楽だね。ちゃんと自分で考えるから」と聞きました。黒澤組での私の演技は、溝口監督の全部「反射」です。私が出たことで作品を壊したら大変。不安と緊張のほうが大きいです。期待される線まではやらなきゃいけないと思うじゃない?必死ですよ』



©1957 東宝

杏っ子
Anzukko 1958年 東宝 108分
監督・脚本:成瀬巳喜男 脚本:田中澄江 撮影:玉井正夫 美術:中古智
出演:木村功、山村聰、夏川静江、太刀川洋一

偉大な作家の父を持った杏子。作家志望の青年との結婚生活は、才能のない夫の義父への嫉妬から荒んでゆく。原作は室生犀星。泥沼の愛憎劇を演じる木村、香川だが「奥様は大学生」(56)では人もらやちよ美男美女の新婚カップルを演じている。

『この作品は難しかったです。寒い中、一升瓶から徳利に酒を移す演技が大変。緊張でガチガチだった。一週間撮ったところで、フィルムに傷が付いていたらしく撮り直し。監督は怒っていたけど、私は嬉しくて、嬉しくて。大リハーサルしちゃったなあって。箱根のロケのとき、木村功さんにゴルフを教えて貰いました。楽しい思い出です』



©1958 東宝

赤い陣羽織
The Scarlet Cloak 1958年 歌舞伎座 94min.
監督:山本薩夫 脚本:高岩肇 撮影:前田実 美術:久保一雄
出演:中村勘三郎、有馬稲子、伊藤雄之助、三島雅夫

映画初出演の先代勘三郎が臆病者の代官役。色っぽい有馬稲子を亭主から寝取ろうと躍起だが、賢い細君にやり込められる。徹底的に女が賢く美しい、そこに権力への風刺が効いてくる。社会派、山本薩夫が木下順二の戯曲を映画化した艶笑コメディ。

『完璧な奥さんでしょう。あの役も好きでしたね。勘三郎さんも面白い方で。わたし撮影の間、自分の顔を殆ど見ないんですよ。こんなに鏡を見ない女優さんは初めてだって言われて。不思議に女優さんって顔に汗かかない。別に訓練してるわけじゃないんですけど。体はもうビショビショですよ。顔にかかないの。勘三郎さんは汗だくで。ものすごく暑い撮影でした。山本監督もこういう喜劇的なものを撮っていらしたんです。とってもいい作品でしたね。好きです』

©1958 松竹

男はつらいよ 寅次郎春の夢
Tora-san's Dream of Spring 1979年 松竹 104min.
監督・脚本:山田洋次 脚本:朝間義隆、栗山富夫、レナード・シュレイダー
撮影:高羽哲夫 美術:出川三男 出演:渥美清、ハープ・エデルマン、林寛子

『追憶』『ザ・ヤクザ』の名脇役エデルマンがアメリカ人のフーテン役で出演。脚本のシュレイダーは、『太陽を盗んだ男』『蜘蛛女のキス』でも知られる(弟ポールは『タクシー・ドライバー』の脚本家)。24作目の寅さんは従来のタッチと一味違う日米人情劇となった。

『アメリカから帰国して、舞台やテレビで活動していたので、映画は久しぶりでした。寅さんの組はスタッフも出演者もみんな家族のようで、最初ちょっと入りにくかったの。でもとても気を遣ってくださって、昼食会をセットでしてくださったり。山田監督とも初めてでしたけど、台本をお書きになる前にアメリカでの生活をお話して、それを基に台本をお書きになったんです』



©1979 松竹